

ポルトガル月報

2020年1月

(本月報は報道などの公開情報を大使館で取りまとめたものです)

在ポルトガル日本国大使館

【主要ニュース】

【内政】★ルイ・リオ氏が社会民主党 (PSD) 党首に再選

【外交】★レベロ・デ・ソウザ大統領のモザンビーク訪問

【経済】★「リスボン欧州グリーン首都2020」オープニング記念式典

内政

●レベロ・デ・ソウザ大統領の新年のメッセージ

1月1日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、アソーレス諸島のコルヴォ島より新年のメッセージを発表した。大統領は、世界、欧州及びポルトガルにおいて、2020年は新しいサイクルの始まりであり、希望を持つべきである旨述べた。また、世界において、大国間の貿易戦争が解決され、気候変動、人権尊重、アジア、ラテン・アメリカ及びアフリカにおける紛争解決、移民難民問題への取り組み等に関するグテーレス国連事務総長のあらゆる呼びかけに対しこれまで以上に関心が向けられることを望む旨、述べた。欧州において、2019年5月の欧州議会選挙により選出された議員及び主要機関の代表者がEUの一体感を一層強め、気候変動対策に取り組みつつ、経済成長及び雇用を促進し、不平等と闘うことを望んだ。そして、ポルトガルにおける希望は、国民の意思により引き続き政権を担うこととなった社会党政権が強い政府であり、対話的であること、また、野党が政権の代替となり得るほどに強い野党であり、国益に関する議論には与野党の枠を超えた協力的な姿勢を示すことを望んだ。

★ルイ・リオ氏が社会民主党 (PSD) 党首に再選

1月11日、最大野党・社会民主党 (PSD) の党首選が行われ、ルイ・リオ現 PSD 党首、ルイス・モンテネグロ元 PSD 会派長及びミゲル・ピント・ルス・カスカイス副市長の3名の候補者が争った。投票結果は、リオ党首が49.44%、モンテネグロ元会派長が41.26%、ピント・

ルス副市長が9.3%となり、いずれの候補者も過半数を獲得できなかったため、上位2名が決選投票に進んだ。

1月18日、党首選決選投票が行われ、リオ党首が53%、モンテネグロ元会派長が47%の得票を得て、リオ氏が PSD 党首に再選された。

●民衆党 (CDS) の新党首選出

1月26日、民衆党 (CDS) は、党大会を開催し、元党青年部長で保守的な思想を持つフランシスコ・ロドリゲス・ドス・サントス氏 (31歳、弁護士) が新党首として選出された。

●世論調査結果—1月

1月30日、ジョルナル・デ・ネゴシオス紙は、インテルカンプス社が実施した世論調査結果を発表した。前回調査と比べ、与党・社会党 (PS) の支持率は微減、左翼連合 (BE) 及びシェーガ党 (CH) の支持率は微増した。10月の共和国議会選挙において、大幅に議席数を減らした民衆党 (CDS) の支持率は半分程度に減少した。

同社による最近の政党別支持率は以下のとおり。

政党	10月	11月	12月	1月
PS	35.6	34.9	33.9	32.8
PSD	24.8	24.9	25.7	25.8
BE	10.7	10.8	10.7	11.9
CDU	6.9	8.1	6.3	6.2
PAN	5.3	4.8	6.1	6.0

CDS	4.4	2.9	3.9	1.9
CH	2.5	4.8	5.7	6.2
IL	0.8	2.9	2.4	2.3
Livre	2.7	2.7	1.1	1.7

■調査期間：1月19～24日、対象者：ポルトガル本土居住の18歳以上の有権者619人、調査方式：固定及び携帯電話番号を無作為に抽出、回答率：63.25%、統計上の誤差：約3.9%

■PS=社会党、PSD=社会民主党、BE=左翼連合、CDU=統一民主連合(ポルトガル共産党(PCP)・緑の党(PEV))、PAN=人と動物と自然の党、CDS=民衆党、CH=シェーガ党、IL=リベラル主導党、Livre=自由党

●自由党、モレイラ議員に対する信任投票を実施

1月31日、自由党(Livre)は、党公認候補として10月の共和国議会選挙に当選したモレイラ議員に対し信任投票を行った結果、同議員の不信任が可決された。

2月4日、モレイラ議員は、自由党に離党届を提出し、無所属議員としての活動を継続する旨発表した。

外交

●サントス・シルヴァ外務大臣、外交セミナーで講演

1月6日、サントス・シルヴァ外務大臣は、外務省主催の外交セミナーにおいて、基調講演を行い、2021年上半年にポルトガルがEU議長国を務めることに先立ち、2020年のポルトガル外交の最重点テーマは欧州の在り方であり、ポルトガルは、前後にEU議長国を務めるドイツ及びスロベニアと密接に協力しつつ、気候変動及び環境保護、経済及び社会におけるデジタル移行、世界に開かれたEUの促進等に焦点を当てる旨述べた。

●アウグスト・アンゴラ外務大臣のポルトガル訪問

1月6日、アウグスト・アンゴラ外務大臣は、ポルトガル外務省主催の外交セミナーの開会式において、基調講演を行った後、レベロ・デ・ソウザ大統領と会談した。

●サントス・シルヴァ外相がソーライデ・ノルウェー外相と会談

1月10日、サントス・シルヴァ外相は、リスボンを訪ねたソーライデ・ノルウェー外相と二国間関係、EU

の共通安全保障防衛政策、EU・NATO関係、英国との関係、ベネズエラ及び中東情勢等について会談した(セラントス海洋大臣及びアポリナーリオ漁業担当副大臣同席)。

★レベロ・デ・ソウザ大統領のモザンビーク訪問

1月13～17日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、ニューシ・モザンビーク大統領の就任式に出席するため、モザンビークを訪問した。14日、同大統領は、マプト市の大統領官邸にて、ニューシ大統領と会談した後、在モザンビーク・ポルトガル大使公邸にて、モザンビークの政界要人を招き昼食会を実施した。同日夜にはマプト市在住のポルトガル系コミュニティを招きレセプションを実施した。15日、同大統領は、ニューシ大統領の就任式に出席した後、ロウレンソ・アンゴラ大統領と会談したほか、マプト市内のポルトガル文化センターにて、民間セクター支援及び対モザンビーク投資を促進するための融資合意文書に署名した。16日、同大統領は、ベイラ市を訪問し、同市在住のポルトガル系コミュニティを招きレセプションを実施した。17日には、マプト市の在モザンビーク・ポルトガル大使公邸にて、モザンビークの文化、スポーツ及び教育分野の要人を招きレセプションを実施した(サントス・シルヴァ外相同席)ほか、モザンビーク民主運動(MDM)、モザンビーク民族抵抗運動(RENAMO)及びモザンビーク解放戦線(FRELIMO)の代表者とそれぞれ会談した。

●衛藤征士郎・日本ポルトガル友好議員連盟会長一行のポルトガル訪問

1月18～21日にかけて、衛藤征士郎・日本ポルトガル友好議員連盟会長一行(谷公一自由民主党議員、稲田朋美自由民主党議員)がポルトガルを訪問した。一行は、レベロ・デ・ソウザ大統領、カヴァコ・シルヴァ前大統領への表敬を行ったほか、ブリリヤンテ・ディアス外務省国際化担当副大臣との面談、日本ポルトガル修好160周年記念レセプションに出席した。

●エンバロ・ギニアビサウ大統領候補のポルトガル訪問

1月19日、12月29日に実施されたギニアビサウ大統領選の決選投票で勝利したエンバロ候補がポルト

ガルを訪問し、コスタ首相及びレベロ・デ・ソウザ大統領とそれぞれ会談した。

●サントス・シルヴァ外相がEU外務理事会に出席

1月20日、サントス・シルヴァ外相は、ブリュッセルで開催されたEU外務理事会に出席した。同理事会では、サヘル地域、気候変動外交及び中東和平プロセスに関する議論がされた。

●レベロ・デ・ソウザ大統領のイスラエル訪問

1月21～23日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、イスラエルを訪問した（リベイロ外務省外務・国際協力担当副大臣同行）。21日、同大統領は、リブリン・イスラエル大統領と会談し、22日には、イスラエル博物館を訪問した。23日、レベロ・デ・ソウザ大統領は、第5回世界ホロコーストフォーラムの開会式に出席した。

●サントス・シルヴァ外相のモロッコ訪問

1月29日、サントス・シルヴァ外相は、モロッコを訪問し、ブリタ・モロッコ外務・国際協力大臣と政治、経済、文化等の分野における二国間関係について意見交換を行ったほか、エル・アラミ産業・投資・貿易・デジタル経済大臣及びモロッコ議会議長とそれぞれ会談した。本年、リスボンにおいて、ポルトガル・モロッコ首脳会談が行われる予定。

●フォンセカ・カーボベルデ大統領が国家評議会に出席

1月31日、フォンセカ・カーボベルデ大統領は、レベロ・デ・ソウザ大統領主催の国家評議会会合にゲストとして出席した。今次会合では、ポルトガル語圏諸国共同体(CPLP)の戦略的視点及び課題に関する意見交換が行われた。

経済

★「リスボン欧州グリーン首都 2020」オープニング記念式典

1月11日、リスボンのエドゥアルド7世公園にて、「リスボン欧州グリーン首都 2020(Lisbon European Green Capital 2020)」オープニング記念式典が開催された。同式典には、メディーナ・リスボン市長、レベロ・デ・ソウザ大統領、コスタ首相、グテーレス国連事務総長、

ティメルマンス欧州委員会副委員長、マトス・フェルナンデス環境・気候変動大臣らが出席した。

1月29日、リスボン市主催のイベントにおいて、エネルギー、移動手段、循環型経済、市民参加分野等の200以上の団体代表者が「リスボン欧州グリーン首都 2020～リスボン気候変動 2030に向けた誓約」に署名し、それぞれの分野において、今後10年間、気候変動に対処するための取組にコミットした。

欧州委員会の「欧州グリーン首都賞(European Green Capital Award)」は2010年に設けられ、環境保護及び経済成長を両立させながら、人々の生活の質を向上させる都市の取組を称え振興することを目的としている。2018年6月21日にリスボン市が同賞を受賞した際、選考委員会は、リスボンが経済危機の時期に持続可能な都市の実現に向けた取組を開始したことを評価した。2021年の「欧州グリーン首都」はフィンランドのラハティ市に決定されている。

●短期国債の入札

1月15日、ポルトガル国庫公債管理庁(IGCP)は、6か月物短期国債として5億ユーロ(平均利回りは-0.487%)及び1年物短期国債として12億5,000万ユーロ(平均利回りは-0.482%)発行した。落札額は、6か月物短期国債が11億2,000万ユーロ(応札倍率2.24倍)、1年物短期国債が22億3,000万ユーロ(応札倍率1.78倍)となった。

●コスタ首相が中国中車集団(CRRC)によるポルト地下鉄の車両売買契約締結式典に出席

1月21日、コスタ首相はポルト市を訪問し、中国の鉄道車両世界最大手メーカーの中国中車集団(CRRC)によるポルト地下鉄向けの18車両売買契約締結式典に出席した(マトス・フェルナンデス環境・気候変動大臣、モレイラ・ポルト市長ら同席)。

●財務省が2019年の財政赤字を発表

1月27日、財務省は、2019年の財政赤字が5億9,900ユーロ(前年比16億4,300万ユーロ減)であったと発表し、2019年の財政赤字の対GDP比0.1%の目標は達成される見込みである旨述べた。

(了)